

熱い思い みんなの心に響け

健全育成主張大会・標語表彰



第24回只見町青少年健全育成主張大会・健全育成標語表彰式が、1月30日に明和地区センターで行われ、気持ちの込められた熱い言葉に感動の拍手が送られました。

標語入賞作品 (敬称略)

部門	賞名	標語	所属	氏名
小学生の部	優秀賞	只見町 郷土の伝統 ひきつごう	朝日小学校5年	増田 寛 <small>かん</small>
	佳作	ブナの木に 負けず根をはれ 只見っ子	只見小学校5年	馬場 真樹 <small>まさき</small>
	佳作	毎日の 努力がいつか 夢むすぶ	只見小学校5年	目黒 翼 <small>つばさ</small>
	佳作	只見町 見守り続けて 50年	明和小学校5年	馬場那央也 <small>なおよ</small>
中学生の部	優秀賞	今という 生きてる実感 大切に	只見中学校3年	黒田 智文 <small>ちふみ</small>
	佳作	何ごとも あいさつ返事 基本から	只見中学校1年	馬場 康平 <small>こうへい</small>
	佳作	「やめようよ」 友達だから 言えること	只見中学校1年	馬場 光弘 <small>みつひろ</small>
	佳作	助けあい 笑顔あふれる 只見町	只見中学校1年	馬場 美樹 <small>みき</small>
高校生の部	優秀賞	伝えよう よき伝統を 後世へ	只見高校2年	山中 勝貴 <small>まさき</small>
	佳作	考えよう 明日の地球 今日のエコ	只見高校1年	長谷部 千晶 <small>ちあき</small>
	佳作	残したい 光る笑顔と 帰る場所	只見高校3年	島谷 紗希 <small>さき</small>
	佳作	あいさつと 笑顔を育てる 家族愛	只見高校3年	佐藤 亮人 <small>あきと</small>
一般の部	優秀賞	見ているよ 君の悩みも がんばりも	長浜	吉津 禮子 <small>れいこ</small>
	佳作	ボランティア かざらぬ気持ちで 第一歩	梁取	山内美代子 <small>みよこ</small>
	佳作	押し付けず もっと聞こうよ 子の声を	福井	渡部 直江 <small>なおえ</small>
	佳作	ただいまと 元気な声を 待つゆうべ	福井	渡部ゆき子 <small>ゆきこ</small>

小学生3名、中学生3名、高校生2名が、今思っていること、体験したこと、体感したこと、感動していること、体験したことなどを心を込め発表した主張大会では、その熱い思いが約130名の来場者に伝わり、発表者の言葉に感動されていました。

続いて行われた標語表彰式では、青少年健全育成町民会議会長の目黒町長が、出席された入賞者一人ひとりに賞状と記念品を贈りました。標語には286点の応募があり、どれもすばらしいものでした。

主張大会での発表内容と、標語の入賞作品を紹介します。ぜひ、ご覧いただき、健全育成にご協力をお願いします。本事業は、町民の皆さんからの協賛金により実施されています。

じいちゃんてすごい！



只見小学校6年

よしだ よし
吉田 栞さん

私には同じ只見町内に住む祖父がいます。母の父親になります。私は幼い頃から祖父を「大倉じい」と呼んでいます。私は「大倉じい」からいくつかのことを学んだのでそのことについて紹介します。

大倉じいは一人暮らしです。七十才を過ぎていますが、掃除、洗濯、料理など何でも自分でやっています。米作りもやっています。昨年の秋に私は脱穀の手伝いに行きました。木を組んで作られた「はで」にかけてあるたくさんの稲を見て、「全部これをやるのは大変そうだなあ」と思いました。やり方を聞き、さあ始めようと機械のエンジンをかけると、驚くことにその音を聞きつけて近所の人たちが集まってきてくれました。そのおかげで脱穀はあっという間に終わりました。私はその時に（人の力が集まるとすごいんだなあ）とつくづく感じました。不思議に思った私は、「声をかけてもいないし、親せきでもないのに、どうして近所の人たちが手伝いに来てくれたの。」

と聞いてみました。すると大倉じいは、「あたりとなりの人、大切にしてください。いざつちゅう時、助けでください。」

と教えてくれました。その事を母に言う、「じいちゃんも、そうやって手伝って来てつがら助けでもらわれないだよ。」と言っていました。私は、そんなじいちゃんがすごいなと思いました。そして、声をかけなくても自然と集まって来てくれる近所の人たちがいるからこそ、一人のじいちゃんもがんばっていられるんだなと思えました。都会ではとりに住んでいる人の顔さえ知らないこともある今の世の中にあつて、只見にはこのような「人のつながり」があるんだなと感心し、私は心が温かくなりました。

じいちゃんはしめ縄作りもやっています。飾りだけ見れば簡単そうに見えるけれど、作るのは手間ひまがかかり、本当に大変な作業です。青わらは夏の暑い時期に刈り取って干します。しめ縄独特のあの色は暑い

ときに干さないと出ないのだそうです。昔は何人かで手分けをして作業にあたり、今後は継者がなく、じいちゃん一人になってしまったそうです。近くの神社の大きなしめ縄も祭りとお正月と年二回、一人で作っています。お正月には家中がわらだらけになり、いくら掃除をしてもまたわらが出てくるほどです。硬いわらやイワシバを使っているの、その頃になるとじいちゃんの手と足はボロボロになります。ごつごつした丈夫そうな皮も悲鳴をあげそうなほどです。何種類ものしめ縄を夜遅くまで、忙しいときは寝る間もおしんで作ることもあります。私が驚いたのは、しめ縄作りで大変な時でも、お正月に神様にお供えするお膳が床の間に必ず準備してあることです。このように、じいちゃんほどどんなに忙しくても、年中行事をとっても大切にしている人です。そのためか、神奈川の大学の先生達がわざわざ来て、話を聞いていくこともあります。それは只見に残っている風習や文化がとても貴重で、それを取材するためでした。生活が便利になったことで昔から伝わる貴重な伝統文化や民俗が失われつつある中にあつて、じいちゃんの果たしている役割はとても大きいんだなと感じました。

このように、わたしのじいちゃんは一人暮らしだけれど、地域の人たちとしっかりつながり合って生活しています。その分、地域のいろいろな役や頼まれ事も多いため、私の学校の行事に來られない事もあります。それはとても

も残念な事です。でも、近所の人たちと関わり、そして地域に残る文化をたとえ一人きりになっても一生懸命守っているじいちゃんを心からすごいと思うし、私の自慢のじいちゃんです。今はまだ年中行事の作業を手伝わせてもらえないけれど、いつかは私も大倉じいの手伝いをしてみたいと思っています。そのためには、じいちゃんに教えてもらわなければならないことがたくさんあります。だから、大倉じい、私が大きくなるまで、絶対に元気で長生きしてください。



私を変えたもの



朝日小学校6年

須佐 萌さん

まずはこの歌をお聞きください。
(朝日小学校児童会の歌)

聞き覚えのあるメロディに、聞き慣れない歌詞が加わっています。これは、朝日小学校に今年できたばかりの「児童会の歌」です。そして私は児童会の代表委員長としてこの歌作りの中心として取り組んだ一人です。代表委員会は、各委員会の委員長と四年生以上のクラスの代表の八人で構成されていて、その名の通り、児童会の代表として朝日小を良くしていくための活動を行っています。これまで、児童会の歌作りだけでなく、一年生を迎える会などの集会やペトポトルのふたの回収なども、私たち代表委員会を中心に行ってきました。中でもこの児童会の歌作りはとて大変で、何回もみんなで集まって話し合いを行ったり、陸上や音楽の練習で休み時間がとれない時は放課後や休みの日に集まったりもしました。今思えば、遊ぶことよりもはるかに時間をかけてとりくんできたと思います。ここまでで、みなさんは私が

すっかりした優等生のように見えるかもしれません。どうですか？

私は、以前はこんな子どもではありませんでした。三年生の時に転校してきた私は、言葉遣いが悪かったりすぐに人を攻めたり、授業中わからないことがあるとすぐにあきらめてぼーっとしているような子どもでした。また、私は大変な面倒くさがり屋で人の手伝いや協力ということがきらいでした。

しかし高学年になると私の中に変化が起きました。理由はよくわかりませんが、ある時を境に友だちの良いとところをまねしようと思うようになったのです。

私の仲の良い友だちには、自分の意見をしっかりと伝える人や、何でも自分から積極的に取り組もうとする人などがいて、そんな友だちと生活するうちにいつの間にか、影響を受けるようになりました。代表委員の長になる時も友だちが「萌ちゃんならできるよ。」と勧めてくれたのです。

初めは友だちの影響ばかり受けて活動していた私ですが、いつしか自分も周囲に影響を与えられる人になろうと思いはじめました。そんな中で私がリーダーとなつて完成した児童会の歌は私に大きな感動と達成感を与えてくれました。初めて体育館で全校生で合唱した時は、鳥肌がたつほど感激しました。この児童会の歌には「みんなが主役の学校」という歌詞があります。今私はこのことを達成するために、みんなに良い影響を与えられる代表委員長でありたいと強く思っています。

そして私がそうであったように、みんなが良いところを認め合いながら輝ける朝日小学校にしたいと願っています。「人の良いところを探そう。」とよく言われることですが、そのことをきっかけに自分がこんなに成長できるとは思いませんでした。友だちからの影響が、自分自身の努力につながった私は、苦手だった算数が得意になったり、運動が得意な私が体育交歓会の百メートル走で二位に入賞したりと、生活の中でたくさん良い方向へ向き始めました。友だちの良いところをしつかり見ることが、自分を変えるための第一歩だと思うのです。

ですから、みなさんの中で、「自分を変えたい。変わりたい」という人はぜひ周りの人の良いところをまねすること、これを行ってみてはどうでしょうか。

私は今、自信を持つて言えます。私を変えたもの、それは私に影響を与えてくれた友だちであり、代表委員長と

いう役割であり、それらのきつかけを自分の力にしようとした私自身だということ。

昨年度の悔しさとライバルの存在



明和小学校6年

飯塚 駿くん

ぼくは、小学校体育交歓会の千メートル走で一位をねらっていました。スタート位置に立った時、今までに経験したことのないようなきん張感で、心臓がバクバク動いたり、足がガタガタ震えたりしました。そんな自分に「今まで一生けん命練習してきたから、大丈夫だ、勝てる。」といい聞かせ、ピストルの合図を待ちました。

昨年度も、ぼくは千メートル走に出場しました。その時は、只見小学校の

M君に負けました。トラック四週目からM君に追いついていけません。タイムで約十秒、距離で約八十メートルの差で、完敗でした。とても悔しく、「来年は、絶対に勝ちたい。」と思いました。

今年度の体育交歓会に向けての練習は、九月から始まり、練習はともハードでした。練習を始めたころは、二百メートルのトラックをダッシュし、一周四十秒以内で走りきる練習でした。一週間後からは、三百メートルを六十秒以内で走りきる練習になり、とても苦しく、きつい練習になってきました。そのため、足が痛くなりました。練習の途中で、「もうだめだ、歩こうかな。」と思ったことが何度もありました。しかし、そんな時は、昨年度の悔しさを思い出し、「もう少しがんばれ、やればできる。」と自分にいい聞かせ、歯を食いしばって練習をしました。「位置について、バーン。」千メートル走がスタートしました。ぼくは、ライバルのM君にぴったり付いていき、ラスト一周でスパートをかける作戦を考えていました。しかし、一周目からペースが速く、「苦しい。」と思いました。また、「このペースで五周走ることはない。」と自分にいい聞かせ、がんばって走りました。しかし、二週目になっても、ペースは遅くなることはなく、今まで経験したことのない苦しさを感じてきました。三週目、四週目になってもペースが遅くなることはありませんでした。ぼくは、

ただM君の後姿を見て走り、必死でついていきました。「カラン、カラン、カラン。」かねの音がおおきくなり、いよいよラスト一周になりました。第一コーナーに入る直前、「ここだ、抜くぞ。」と思い、作戦通りに、ラストスパートをかけました。スッとM君の前に行き、力の限り全力で走りました。「いけるかも。」と思いました。足は、すでに棒のようになっただけで、思うように前に進むことは出来ませんでした。体全体が疲労でいっぱいでした。すると、第二コーナーで、「あつ。」と思った瞬間、M君がぼくを追い抜き、三メートルくらい前に行きました。「負けれない。」と思い、足を前に前に運びましたが、その差を縮めることはできず、そのままゴールしました。タイムは三分二十七秒で二位でした。しかし、昨年度よりも十三秒も縮めることができ、自己ベストが出せました。負けたことは悔しかったですが、自分の力を出し切り、満足の行くタイムを出すことができ、悔しさから少しづつうれしさに気持ちが変わってきました。

ぼくが、ここまでがんばれたのは、昨年度の悔しさとライバルの存在があったからです。来年は、中学生になり、M君と同じ中学校に入學します。ぼくは、中学校でも長距離走を続け、駅伝部に入りたいと思います。そして今年の悔しさをばねにし、また、ライバルに負けたくないようにこれまでに以上に努力していききたいと思います。

電気の廃棄物



只見中学校2年

藤田百生さん

みなさん『NUMO』という言葉をご存知ですか。

私は新聞でこの問題を知りました。今から四十年前、私たちの父や母が生まれた頃に原子力も誕生しました。私たちの家庭をささえる電気。現在約三割は、原子力発電です。原子力の誕生は原子炉の中で、ウランの核分裂反応により発生する熱を利用して湯を沸かし、その蒸気で大きな羽根車を回して発電します。家庭からゴミが出るように、原子力発電からも『廃棄物』が出ます。ウランは発電により約四パーセントしか消費されず、残りの約九十六パーセントは再利用できません。そこで原子力発電所では使い終わった燃料から消費されなかったウランと新しく生まれたプルトニウムを回収し、再び原子力発電所で使用するリサイクル計画を進めています。

方法が地層処分です。地下三百メートル付近に長い間にわたって安全・確実に隔離する方法です。地下では、地上に比べて、地震、津波、台風等の自然現象による影響がほとんどなく、戦争、テロ等の人間の行為による影響も受けにくいという特徴があります。また、地下にある物質は主に地下水によって運ばれますが、地下三百メートルでは地下水の動きがとて遅いため、物質の移動が非常に遅いという特徴もあります。さらに、酸素がとて少ないため、錆びなどの化学反応が抑えられ、物質を変質させにくいという特徴があります。これらの特徴により、地下三百メートルは地上に比べ、物質を長い間、安定して閉じ込めるのに適した場所といえます。

みなさんはこの地層処分をどう思いますか？

私たちの未来を思うと、今すぐ考えなければいけません。

平成二十年末までに使い終えた燃料をガラス固化に換算すると約二万二千二百本、平成三十三年頃には約四万

本に達する見込みです。現在使用済燃料の形で青森県六ヶ所村や原子力発電所などに貯蔵管理されていますが、地上保管を続けることは難しく、放射能が減って、人体に影響のないレベルになるまでには数万年かかり、その間人間が地上で管理し続けるのはとても難しい状況です。

日本の原子力発電所の運転、建設、着工準備中の数は六十六箇所あります。これからも人類が生き続ける限り原子力は増え続けます。

エネルギー面から見ると様々なエネルギー発電がありますが、エネルギー効率、エネルギー資源、エネルギー出力などを比較してみると、実用性の高いエネルギーです。

環境面から見てもCO₂が少なくなるのは確かで、環境への影響も少ないというメリットもあります。しかし、不要になった温水による海洋生物への影響など完全にクリーンなエネルギーとはいえないようです。

地域から見ると地方交付金を与えられたり雇用が増えたりといった利点が建設地域にはあります。しかし、いらなくなつた原子炉の問題や危険性、交付金の使い道など欠点もあります。地域の声も賛否両論という現状です。魅力的な原子力発電。危険な原子力発電。私達はエネルギーを使う限り、しばらくの間はエネルギー問題を抱えつづけます。もう、目をそらす訳にはいかない現実があるのです。

今、この瞬間も『放射性廃棄物』は増え続けています。家庭のゴミに

はゴミ捨て場がありますが『電気的廃棄物』にはまだ捨てる場所がありません。他国はすでに処分場を決めています。日本では、まだ問題の存在さえ広く知られていないのです。今後、私達に求められるのは、消費エネルギー自体の減少ではないでしょうか。『電気の廃棄物問題解決への取り組みN U M O』をあなたはどうか考えますか？

愛するふるさと のために

只見中学校 3年

やぎ した あさ み
柳 下 朝 実さん



みなさんは、只見町が好きですか。私は、自然が豊かで、やさしい人ばかりいる只見町が好きです。ですが、こんなに良い町でも、直さなければいけない点や、ちよつと工夫すれば、より良くなる点があるという事を、只見町町制五十周年記念に行われた、子ども議会を通して学びました。私は、議会での質問事項を三つ用意しました。しかし、最初は何も思いつかず、友達や先生、お父さんお母さん、おじいちゃんおばあちゃんと同様年代の方に只見町の改善すべき点、工夫すべき点を質問してみました。自分では何も思いつかなかつたのに、それぞれの年代によつて、異なる意見がたくさん出てきました。その中でも、私が最も共感できた三つを選びました。

まず一つ目は、お年寄りの方の生活についての事です。今の只見町は、お年寄りの割合が多いです。そういう方の、今後の生活のために只見町から補助金が出ないのかと思いました。もし補助金が出れば、一人暮らしのお年寄りの方も安心して生活できるのではないかと考えました。

二つ目は、只見町には街灯が少ないのではないかという事です。夕方、暗くなつてくると、下校中怖いなと思う事があります。私達中学生だけでなく、高校生や大人の人も暗い夜道を歩くのは不安だと思えます。今の世の中、ぶつそうなニュースが多いので、安全面の事も考え、街灯は必要だと考えました。

三つ目は、静かに勉強のできる施設

がないのではないかという事です。特に、中学生や高校生はテスト前、勉強しようと思つても家では集中できない人がいると思います。また、そのような施設ができることによつて、小中高校生との交流も深まつていくのではないかと考えました。

しかし、この三つの質問事項も実現させるには、たくさん問題点がありました。お年寄りへの補助金の件では、内容によつてお金の額がちがうが、県や町からの制度があるという答えでした。

次の街灯の件では、土地の所有者と電気料の支払いの承諾を得なければいけないという事でした。そして、勉強ができる施設では、各小中学校や地区センターの図書室をマナーを守つて積極的に使つてほしいとの事でした。

私達が、あれをやつてほしい、これをやつてほしいと軽く言っている事でも、いざ実現させようと思うと、とても時間とお金がかかります。このことから、何事も良く考えてから行動したりしようと思うようになりました。

この子ども議会では、私達中学生だけでなく、三地区の小中学生も参加していました。そこで、ほかの人の意見を聞いてみると、共感できる物がいくつかありました。それは、水の郷、只見町。ブナの森が有名な町といいますが、それらを強調できていないのではないかという事です。ある人は、自然が豊かであり、自然首都でもある只見町ですが、噴水や木を使った芸術的なものを作つてみてはどうかと提案しま

した。確に、噴水や芸術品ができることよつて、観光客も増え、只見町の自然の素晴らしさをたくさんの人に知ってもらえるのではないかと思いました。私は、これはぜひ実現させて、自然首都としてふさわしい町を作つていつてほしいと思ひました。このような意見がたくさん出た子ども議会は、只見町の改善すべき点や工夫すべき点を考えるだけではなく、たくさんの人達と意見を出し合い、話し合う事の大切さや必要性を学ぶための議会だったのだと感じました。また、町長さんと向き合つて話せた事は、これから社会へ出て役立つと思うので、とても貴重な体験になりました。

とこでみなさんは、東京など大都会へ行つた時に、息が苦しかったり、空気が汚れているなと感じた時はありませんか。私は実際、東京へ行つた時に息がしづらひと感じました。都会へ行くと、車が多いため、廃きガスで空気が汚れています。また、人が多いため、ゴミのポイ捨てがよく見られます。ですが、この只見町は、空気がきれいで、住みやすい町だと、改めて感じる事ができました。私自身も、噴水をつける事や芸術品をつくるという大きな事はできませんが、何か只見町のためにできることはないか考えてみました。たとえば、ゴミのポイ捨てをしない、使わない電気は消す、食べ残しをしないなどといったエコ活動をすれば、只見町はより住みやすく、良い町になると思ひました。みなさんも、この只見町にしかない素晴らしい自然を守つていきましよう。そして、町の人みんなが、ふるさとである只見町

責任を持つこと



只見中学校3年

本名 奈菜さん

を大好きになるように、意見交換をしい、町づくりを活発にしていましよう。

私達は、もつと命を大切にすべきだ。ある映像を見て私は強くそう思ひました。私が見た映像、それは、沢山の犬や猫達がひどい扱いを受けている映像です。本当に小さな檻の中にぎゅうぎゅう詰めにされ、トラックで運ばれる動物達。その山積みの檻が、トラックの荷台から投げ降ろされます。人間だつてそこから落ちたら大怪我をするかもしれない高い所からです。そしてそれはまたどこかへ運ばれて行きます。足や手が檻の外へ出ていれば、人の足で蹴られ、逃げようとすれば、鍵棒のようなものでつかまえられて、また押し込められるのです。その映像はたぶん日本ではありません。でも、日本には保健所という所で毎年多くの動物達が処分されています。戦争当時、動物の毛皮は兵隊さんの服に使われたと言ひます。そのために、動物を殴つて殺す役目の人もいました。「ごめんな。ごめんな。」と言ひ、心を傷めながらしかたなくやつていたのだと思ひます。今はどう処分するのか私には分かりません。でも、それに携わる人達が嫌々やつているというのは、今も昔も変わらないはずで、ではなぜ、このような動物達が増えてしまふのでしょうか。ペットを飼う事に対して責任が無く、あきてしまつたという人もいます。しかし、それ以外の理由もあります。一つは、人間の都合、状況が動物を飼う前と後で変わつてしまふからです。もう一つは、動物が迷子になつてしまふからです。皆さんは動物を飼おうと決めたら、どんな気持ちになりますか。どんな名前を付けてあげようか。どこに部屋を用意しようか。どんなおもちゃを買つてあげようか。散歩はこうしよう。可愛くてもしつけはちゃんとしなくては、嬉しさをいっばいだと思ひます。動物もそのように迎えられたら嬉しいと思ひます。でも、何か月かして突然引つ越す事になり、そこでは動物を飼えないとなつたらどうしますか。ここで、しかたなく動物を捨ててしまふ人が多いのです。

また、動物の方が迷子になつてしまひ、家に帰れなくなつてしまふ事もあります。飼い主に会いたくなり、探しに行つたら迷つてしまつた。好奇心旺盛な子犬や子猫などは、見知らぬ物について行つたら帰れなくなつた、などという事もあります。理由は様々ですが、このような動物達も沢山います。皆、しかたなく処分されてしまふのです。確かにそれはしかたのない事かもしれませんが、でも、だからと言つて動物を大量に処分する事は正しいと言ひるのでしょうか。皆さんは、迷子になつた事はありますか。私があります。その時、帰りたい、助けてほしいと思ひ、怖かつたのを覚えています。迷子になつた事のある誰もがこのように恐怖を覚えたと思ひます。動物も同じで、捨てられたり、迷子になつたら恐怖でいっぱいになるのです。動物を飼うということはつまり、一つの命と共に過ごすということです。私は小さい頃、保育所で鉄棒から落ちて怪我をしたことがあります。その時、保育所の先生がすぐに駆けつけて



来て下さり、病院まで私を運んで下さって下さいました。預かっている子供達をまるで我が子のように面倒を見て下さる先生方は、とても責任感が強いのだなと思いました。動物を飼うときも、そのぐらいの責任が必要です。首輪を付けてあげたり、もしいなくなつてしまつたら保健所や役場、近所の人に連絡をすることも、責任の一つです。

命を大切にするにはどうすればいいのかをよく考え、自分にはそれが出来るのかを判断することが、命に対する責任なのです。

最近気づいたこと



只見高等学校1年

湯田知子さん

中学三年の夏、私はある思いを抱いて進路を決めました。「自分の周りにいる友人や親から離れて誰も知り合いがいらない町で高校生活を送り、自分を変えてみたい。」いつも口だけで有言実行できなかった私でしたが、その時は本気でこう思っていました。なぜこのように思ったのかはあまりハッキリは覚えていませんが、とにかく自分を変えたいという思いが強かったことだけは覚えています。何事も最後までやりとげられず、いつも自分を甘やかし、親をうざいとか思えなかった私。そんな自分が大嫌いでした。

中学生だった夏から一年以上経つた今、私は只見で生活しています。只見で生活し始めてから約十カ月が過ぎました。私はこの短い十カ月で何か変わることができたのだろうか？ そんなことは客観的に見れば見つけることができるかもしれませんが、客観的には絶対に分からない心境の変化を感じることがありました。それは入学式から約三日後、私がみ

ごとにホームシックにかかりました。そしてその時、どれだけ自分の家が良いものだったのか、家族がどんなに温かいものなのかを実感させられました。同時に親に対する気持ちも変化しました。うざいとは思っていませんでした。しかし、寮生活をしていくうちに大切な存在へと変化していき、その親を悲しませないために自分は何をしなければいけないのかを考えるようになったり、家へ帰った時はなるべく家族と会話をしようなど、今まで考えたこともなかったことが一つの心境の変化からたくさん生まれることになりました。しかし、その半面、そんな自分を馬鹿らしく思った。親と離れて学ぶことはたくさんあるけれど、親の大切さなど中学時代でも気づくことができたはずなのに、どうして今頃気づくんだらうと思えました。このような考えを持ったのは、この時だけではありませんでした。

新しい生活にも慣れたある日、私はテスト勉強をしていました。家に

帰ると集中できないのになぜか寮では集中できる。その時、遅いが気付いてしまいました。何でも自分の気の持ちようが変わるということ。何で私は今までそんなことに気付かず生活してきたのだろう。嫌なことに適当な言い訳をつけて避けていた自分が本当にみじめに思いました。その時は自分を責めてばかりで考えていませんでしたが、私はきつと気の持ちようだと気がついてはいたはず。しかし分かっていながら、集中できないのは環境が悪いからなど、人や場所のせいにして自分の意志が弱いと思っていました。このように考えると私が遠い町で高校生活を送る意味があったのかと思えました。しかし、私は只見で高校生活を送ることができてよかったと思います。どんなに自分の気の問題だと分かっていても、家には絶対に自分を変えることなんてできないから。私は人より厳しい経験をしなければ、自分の意思は強くなるかと思えました。だからホームシックというものを経験できてよかったと思います。入学当初は、只見を選んだ自分をうらみました。しかし今は違います。自分の選んだ進路は正しかった。私は最近こう思います。



平和であること



只見高等学校2年

いがらし
五十嵐 梨 紗さん

皆さんは普段生活している中で、この世界のどこかで起こっている戦争や紛争地域に住む人々のことを考えたことがありますか。今ご飯を食べているときインドのスラム街の子どもたちは：とか、今温かい布団で寝ているときイスラエルの人々は：とか、そんなことをいつも意識して過ごす人はあまりいないと思います。私たち日本人は、平和で豊かな事足りた生活を送っています。毎日三食ご飯が食べられて、毎日学校に通えて、毎日お風呂に入れて、毎日温かい布団で眠れる。私たちにとっては当たり前のことです。しかし、世界の大部分の地域では私たちが当たり前だと思っていることが当たり前ではないのです。

例えば、「世界がもし百人の村だったら」という有名な話があります。村人百人のうち七十人は文字が読めず、八十人は標準以下の居住環境に住み、五十人は栄養失調、そのうち一人は瀕死の状態になっています。私たちの周りに字が読めない人がいるでしょう。栄養失調で今にも死にそうなの人がいるでしょうか。私は見たことがありません。少なくとも私たちが住んでいるこの町にはいないと思います。日本やアメリカのような先進国に生まれ、裕福な生活ができるのは、ほんの一握りのごく限られた人たちだけなのです。私たちが生きていく上での環境が、非常に恵まれているということを確認しておくべきだと思います。

現在、地球上では三十以上の紛争と内戦が未だに続いています。特にその中でアフリカで起こっているダルフル紛争は、最も危険なところだと言われているそうです。ダルフルは一九五六年の独立以来、一九七二年から一九八三年の十一年間を除いて、二〇〇万人の死者、四〇〇万人の家を追われた人、六〇万人の難民が出ているそうです。私は先日この紛争で難民となった人々をインタビューしたビデオを見ました。金銭や家畜を奪われ、いくつもの村が焼かれ、村人たちを無差別に殺し

ていったのだと彼らは語りました。私は彼らの言葉からその情景をうまく想像することができません。彼らが感じた恐怖を同じように感じることはできません。私の今の生活と彼らの生活があまりにもかけ離れているからです。世界各地で起こっている紛争や内戦の多くの元凶は先進国にあります。私たちの生活は何億もの犠牲の上に成り立っているのです。

現代社会の授業で国際社会について学びました。政治的な目線で書かれた文章には、紛争や内戦の犠牲者になった人々の声までは載っていません。しかし、私たち先進国に住む人々は、少しでも多くこれらの地域の現状を知りたいと思います。現在国際協力としてOEDやPKOなど、発展途上国や紛争地域で活動している機関があります。私たちがそれらの活動に加わって実際に現地に赴くのは困難ですが、支援物資を送ることやコンビニ、電話、インターネットなどで募金することができます。

地球上に住む人たちが笑顔で毎日過ごせるのが理想です。それはとても難しい事です。少しでも理想に近づくためには、積極的な国際協力が必要だと思います。国際協力と言っても、軍事的な国際協力は私は反対です。武力によって問題を解決する事はできないと思うからです。

それよりも豊かな国は発展途上国や紛争地域などの貧困で苦しむ人々に手を差し伸べなくてはならないと思います。



▲ 標語入賞者「一般の部：優秀賞 吉津 禮子さん」



▲ 標語入賞者「小学生の部：優秀賞 増田 寛くん」